

こころに吹く風は…<カウンセリングルーム便り>



ご入園、ご進級おめでとうございます。

今年度も新たな出会いを思うと胸がきゅんとして そして わくわくします。

子どもたちが 私たち大人を 育ててくれる

子どもの発達に標準を示すものさしが提示されると、何事もできてあたりまえ、できなければ障害や発達の遅れがないかと不安にさせられる親が増えました。標準より遅いと「やっと歩けるようになった」「やっとしゃべれるようになった」と、控えめに小さくしか喜べなくなっています。幼い子にとって、昨日までできなかったことが今日できるようになったことは、新しい世界を手に入れたのと同じくらいうれしいことなのです。でも、親は次々にやってくる発達指標のハードル越えに緊張を強いられ、子どもの成長のいまを心から喜びとする感動が希薄になったしまいがちです。なんともったいないことでしょう。子どもは自分に与えられた生命のリズムを、ありのままに感じながら、マイペースにひたむきに育っていく存在です。早熟の子もいれば、大器晩成の子もいます。ひとりひとりがかけがえのない存在です。

今親に求められているのは、あちこちで流布される専門情報を拾い集めて不安になることではなく、目の前にいるわが子をしっかりと見ることです。子どもの成長を知る確かなものさしの一つは、3か月前、半年前の子どものに比べて、どんなふうに変化してきたか振り返ってみることで、そうすれば、わが子が確実に成長を重ねていることに確信が持てることでしょう。子どもが大きく育つためには、成長を急がせない寛容な大人が必要です。そして、待てる大人、許せる大人、子どもを対等な存在として認めることのできる大人を、時間をかけてじっくり育てる力を持っているのは、ほかならぬ子どもたちです。 内田良子著 「幼い子のくらしとこころ」より

カウンセリングルームをどうぞお気軽にご予約ください。一緒に子ども達の笑顔をつくっていきましょう。